

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300086		
法人名	グループホーム 小祝	ユニット名	さくら・もみじ
事業所名	株式会社リーフ		
所在地	大分県中津市宇小祝525番地277		
自己評価作成日	平成26年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス福祉評価センター 大分事業所		
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640		
訪問調査日	平成27年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周防灘が目の前にある自然にあふれた施設で、天気の良い日は海を眺めながらの散歩が楽しみ、気分転換も図れます。又、桜並木があり、開花時期には花見も行え季節感も味わうことができます。近隣地区で散歩や花見、地域行事に参加する事で、地域の方々と触れ合い交流を持つことができ施設に対しての理解も深まっており、地域の方々からのお誘いの声がかかるようになってきております。施設内は自然光を取り入れるよう、中央に中庭を造り、天気や時刻、生まれながら人が自然と身に付いた感覚を遮断しないよう心がけた造りにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム小祝は、古くから漁場として栄えた地域に位置する海を臨む事業所である。同一法人が運営する小規模多機能型施設が隣接し、行事や研修、運営推進会議等で広く職員間の連携が取れ、日常業務に反映されている。運営推進会議を契機として、地域との交流が深まり、様々な行事参加が見られる。中でも「防災教育モデル実践校」に指定された近隣の中学校とは講演を行う等、確かな協力関係が築かれている。管理者や職員とのヒアリングから、入居者の重度化や症状の深刻化に伴い、日々厳しい対応が求められる中、真摯に現実と向き合いながら、常に入居者の思いに寄り添った視点で、自らの介護や看護の実践に努めていることがうかがえる。テーブル配置の工夫、食事提供時の柔軟な配慮、散歩や外出の実施方法の視点、リビングの壁に掛けられた俳句投函用ポスト、庭に配された猫の置物等、入居者一人ひとりの好みや趣味、嗜好を尊重した演出が具体的な形で日常の生活空間に提示されている。その様は、数多の制約があろうとも、そこに一縷の可能性を見出し、「その人らしい」暮らしの実現に努めんとする当事業所職員の姿勢に他ならない。今後の真摯な取り組みが楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先やフロアにご家族が、ご理解して頂けるように掲示している。また、職員の意識づけの為、名札の裏に理念を入れ常時携帯している。その他、会議やカンファレンス時などに運営方針を確認し論議の方向指針としている。	設立時より、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作り上げている。その内容は、5項目からなる運営方針として示されている。職員は、日常業務や各会議において迷ったり、行き詰った際に、理念を「判断基準、立ち返る指針、職員の気持ちをひとつにするもの、目指すものの確認」と位置付け、活用し、その価値を共有しながら、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に参加されている地域代表から情報を頂き、その情報を基に地域の行事へ参加している。また、地域の防災訓練の参加なども行っている。	運営推進会議を契機として、地域交流の門戸が広がっている。具体的には、老人会や神楽等地域行事の参加、中学校の運動会見学、保育園との交流等、地域とつながる機会が確実に増えている。また中学校の防災教室で、避難時における搬送方法や介助について講演する等、事業所の特性を活かした地域貢献を行い、顔の見える確かな関係作りがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と共に、地域の行事や防災訓練に積極的に参加させて頂き、交流の機会をつくり、地域で暮らしていけるような馴染みの関係づくりと共に地域の方々に理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方やご利用者のご家族の方、介護福祉関係の方々を招いて、2ヶ月に一度会議を開催し、施設の現状報告を基に、意見交換を行いサービスの向上に努めている。	併設の小規模多機能施設と合同で、地域住民、行政、家族代表等と多様な参加者のもと2ヶ月に1回開催している。詳細な議事録から、運営・活動内容、防災の取り組み等が報告され、忌憚のない意見交換がなされていることが確認出来る。また本会議を契機として地域との交流も拡がり、地域行事への参加や、目標に掲げる「地域防災対策協力」への取り組みへとつながり始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡をとり、当施設の実情を報告し、ご指導ご協力を頂いている。また、中津市内のグループホーム、小規模多機能施設合同の連絡会や当施設の推進会議に参加を頂きご助言ご協力を頂いている。	市町村担当者とは、日頃から運営状況の報告や相談を行う等、「顔の見える」良好な関係が築かれている。特に相談については、人員体制の基準や困難事例への対応の助言、及びこれに伴う情報交換を行う等、密接な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。但し、ご利用者の安全を守るため、夜間はユニット入口の施錠を行っている。職員への周知については、入社時の基礎で業務マニュアルの内容やケア対策事例などを説明確認したうえで業務に入っている。	身体拘束の対象となる行為について、職員は理解し、マニュアルや研修、日常業務を通して、更なる周知に努めている。「抑制語」の使用に留意をしたり、「外出願望」のある方については、ドライブに連れ出し気分転換を図る等、柔軟な対応に努めながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠については、日中は行わず、電磁ロックで対応している。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時のオリエンテーション時に、業務マニュアルに記載されている内容を周知している。また、休憩室にポスターを貼り、虐待防止の周知をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時のオリエンテーション時に、業務マニュアルに記載されている内容を周知している。また、研修内容の情報伝達を行ったり、専門の相談員と相談連携し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前に不安なきようサービスについての説明を行い疑問などにお答えしている。また、入居時にはご家族に各種書面(重要事項説明書、契約書、運営規定)にて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、ご家族様や来園者がいつでも意見や要望を投稿できる環境に努めている。また、ご家族が平素の会話の中からも要望や意見を話せる関係づくりに努めている。	日頃から入居者や家族が意見や要望を表し易い環境作りに努めている。実際、面会時に直接聞くことが多く、その都度説明を行い、改善を図る等、運営に反映している。また面会のない方については、家族に電話し近況報告等を行いながら、潜在化する要望や意見の掘り起こしに努めている。併せて行事案内を行いながら、交流の場を設けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中で、意見や要望、業務提案を聞き取り、業務に取り入れている。ユニット会議や全体会議での意見交換を業務に反映できるよう努めている。	職員には委員会活動や、毎月開催される全体会議(併設の小規模多機能施設も参加)を通して、意見や提案を述べる機会が確保されている。代表者・管理者は、そこで出された意見・提案について、運営に反映させるよう努めている。全体会議の議事録からは、詳しい報告がなされていることが確認出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の為、毎月評価表を作成し、給与に反映している。労働時間については、業務終了後はなるべく速やかに帰宅できるように促している。また、ご利用者に合わせた外出行事やレクリエーション等を職員の判断で取り入れ、向上心を仰いでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回、全体会議等を活用し施設内研修を行い、職員のスキルアップと共にご利用者のサービスの質の向上に努めている。また、外部研修情報を掲示し、自発的に参加できる環境を作っている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム、小規模多機能施設と合同の連絡会の参加や認知症ネットワークの会に参加し、同業者と交流や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談の段階からご家族同意のもと、ご本人様と数回お会いさせて頂き、関係づくりに努めている。また、入居前の情報やご家族のお話を基にニーズを把握し、寄り添い、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをくみ取れるように、何度も相談を行いながら、ご家族の要望を反映し、ご本人が安心して頂けるケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回訪問の情報だけでなく、入居前の担当者や主治医からの情報をふまえ、適切なサービスが提供できるよう見極めて支援に反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、ご利用者からのアドバイスやお手伝いを頂きながら、ご利用者と共に日常活動を行えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時にご本人の状況を伝える事で、日々の情報の共有を行い、ご家族も支援できる関係づくりに努めている。また、施設行事の参加の呼びかけをし、家族との時間を持てるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から情報を頂いたご本人の思い出の場所へのドライブや買い物に出かけている。また、馴染みの関係のある方の面会援助も行っている。	和菓子屋や、デパート、史跡、図書館、盆・月命日のお参り等、一人ひとりにとっての思い出の場所、馴染みの場所を可能な限り訪れ、思いや関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫し、個性を生かし自然にコミュニケーションがとれ関係性が維持できるよう努めている。また、ご利用者の方々の状態に合わせて都度の変更もおこなっている。その他、少数での活動や両ユニット合同のレクリエーションも出来るようにメリハリをつけている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の相談内容に応じて、必要な機関と連携を行い情報提供などを行っている。また、長期入院の方には、面会を行いながら、精神的援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前情報を踏まえ、日々の暮らしの中からも、ご本人の希望や思いをくみ取り、職員間で情報交換を行い生活に活かせるよう努めている。	初回アセスメント時、本人・家族から基本的な情報や生活歴等について聴取している。これをもとに、日々の暮らしの中から、一人ひとりのコミュニケーションを通して得た情報、及び職員の「気づき」を反映し更新することで、本人本位の検討に努めている。	現状の長所「①計画書のサービス内容が詳しい。②一人ひとりの生活歴や思い等『その人らしさ』について把握出来ている」を踏まえ、「より本人本位の検討と職員間の情報の共有」の観点から、現在のアセスメント様式に該当する「生活歴」部分の記載の充実を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や前担当事業所からの情報を職員間で共有し、ご家族にもご協力を頂きながら、ご本人らしさのある生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常を大切に健康状態観察と把握に努め、残存機能を活かした生活ができるよう援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの意見、要望を取り入れながら、受診時は主治医から頂いた意見内容を基に、ケアカンファレンスを開催し、ケアプランに反映している。	本人・家族の要望や意向、主治医の意見をもとに職員間で話し合いながら計画書を作成している。計画書にはサービス内容が詳しく記載されている。モニタリングは毎月実施し、基本的に半年ごとに評価、見直しをなされ、現状に即した計画となるよう努めている。	計画書の記載が詳しいこと、及び入居者との日頃からの密なコミュニケーションにより、「その人らしさ」についても把握出来ていることを踏まえ、計画書とアセスメントが連動し、より効果的なモニタリングや評価につながる計画書の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に、記録とプランを連動させ、日々のアセスメントをしながら、ご本人に合わせたケアに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人らしく生活して頂けるように、その時々状態に合わせて、可能な範囲で個別対応援助などを工夫している。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や催し物には声をかけて頂き、可能な限り参加し馴染みの感覚や季節感、楽しさを喜びを感じ、心の豊かさを感じて頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、ご本人やご家族の希望している医療機関を利用していただけのように援助している。また、主治医へは、ご本人の必要な情報を提供している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。受診についても職員が同行し、情報交換を行いながら、本人本位の適切な医療が受けられるよう支援している。往診時についても、看護師や管理者が付き添い、状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理を行い、体調不良時は看護師に報告。急変時は、管理者、看護師がオンコールにて駆けつけられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護・介護サマリーの情報提供及び申し送りを行っている。入院期間中は、面会しながら精神面の援助を行い同時にご家族やソーシャルワーカー、医療スタッフと連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の急変時はかかりつけ医や協力病院との連携を図り、緊急診療をお願いしている。また病状変化については、ご家族に病状や診療結果の説明をし情報を共有している。	重度化や看取りについての指針を作成し、契約時に説明するとともに希望を確認している。ホームでの看取りの事例はないが希望に応じて可能な限りの対応を行う方針である。実際、希望に応じ、緊急搬送直前まで支援を行った事例がある。チームケアの質を高めていく為に、研修の実施や職員一人ひとりのスキルアップを目標に掲げているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員を設置しており、事故後すぐに対策を行い、再発防止に努めている。また、AEDや救命の講習等に職員が参加し、救急に対する意識の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練をご利用者と一緒に行い、職員の防災への意識向上に努めている。緊急連絡網を都度見直し、緊急時に対応できるように周知している。また、地域の防災訓練に参加している。	夜間想定を含む年2回防災訓練を行っている。内1回は消防署の立会もなされている。定期的に緊急連絡網を見直すとともに、備蓄の完備もなされている。また「防災教育モデル実践校」である近隣中学校の防災訓練に参加する等、広く地域との協力体制の構築に努めている。	災害対策への意識も高く、事業所実施の訓練についても、地域住民等の参加による実践的な内容を目標にしており、その実現を期待したい。

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに会った生活や習慣を尊重したコミュニケーションや対応を行っている。また、身体援助については、プライバシーが保護できるような援助に努めている。	共有スペースの中にも、「その人らしさ」やライフスタイルを尊重する配慮が随所に確認出来、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを確保せんとする方針が垣間見られる。また日頃の何気ない会話の中でプライバシーへの配慮を要する内容になった場合は、さりげなく別室に移動する等柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思を日常の会話や言動の中から、見出し自己決定の表出に繋がるよう声かけや援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での活動時間はあるが、ご利用者の今までの習慣や状況、ペースなどを考慮し個々の過ごし方できるよう援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の今までの習慣、表現、おしゃれ等が出来るように、ご本人の思いをくみ取りながら支援している。清潔の保持にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者の嗜好調査を行い、季節に応じた調理方法や献立、個人に合わせたメニューを栄養士と相談しながら提供している。お好きで可能な方には盛り付けや下膳などを一緒に行っている。また、時折おかずやおやつを手作りしている。	嗜好調査は、本人の状態変化に応じて更新している。食事は調理室で作られ提供されるが、入居者の要望やその日の体調・気分に応じて、ユニットごとに調理や代替メニューの提供がなされる等、臨機応変に対応している。準備や片付けについても入居者の出来る範囲で行っている。また食材にホームの畑で採れた野菜を使用したり、定期的には外食に出掛ける等、食事を楽しむ工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康チェック、個人の嗜好に合わせた飲料の種類や補助食の種類を選択できるよう工夫している。摂取量にムラのある人は、看護師・栄養士・主治医に相談しながら食事の形態を変更したり、必要に応じてご家族の協力を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア援助を行い、適応者には義歯専用洗浄剤を使用している。また、歯科医からのアドバイスを頂き、口腔機能環境維持の為、口腔ケアを行っている。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残された機能を発揮できるよう努めている。1人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄を優先しながら失禁の減少に努めている。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、トイレ誘導を行っている。起立が不安定な方についても、日中はトイレでの排泄を優先している。居室にあるポータブルトイレの使用は夜間のみとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分量や活動量や食事量に注意している。便秘傾向の方は、腹部マッサージや体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上のスケジュールの中で、ご本人の気分や体調に合わせながら、日時の変更を行っている。また状況に合わせ可能な方は入浴剤を使用している。ご本人の思いや習慣に合わせ柔軟に対応している。	基本的に週3回入浴を実施している。朝、午後、毎日と、本人の希望に臨機応変に対応している。また入浴を好まず拒否する方については、時間を空けてタイミングを見計らったり、声掛けを工夫する等の配慮をしながら、一人ひとりの希望にそった支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に起床時間や就寝時間を決めず、ご本人の習慣やペースに合わせて休息や睡眠をとって頂けるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、細かな状態報告を行い処方をして頂いている。それに伴う服薬の増減や変更を薬効や副作用を含め説明し症状変化を確認し主治医と連携を取っている。服薬介助時は、薬の数を確認しながら介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や生活習慣の中から、本人の喜びや楽しみを見出せるように役割づくりや家事活動、レクリエーション、趣味活動などを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に合わせ可能な限り戸外散歩や外出、地域行事に出かけるよう努めている。また、ご家族の協力が可能な方には、家族外出援助を行って頂いている。	日頃から一人ひとりの体調や、その日の天候に合わせて、小グループで海岸方面等ホーム周辺を散歩している。時には途中から自動車に乗り商店街まで出掛けることもある。団体行動が苦手な方については個別対応を行っている。また希望に応じて、ドライブや外食に出掛けている。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に合わせ、ご家族の許可や了承を頂き、管理できる範囲の金額を所持している。また、ご本人の希望があれば、個別で対応し、施設立替えて個別買い物外出援助で購入できるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望がある方は携帯電話を持たせ、自由に連絡をしている。ご家族や友人からの電話や手紙の要望がある時は、ご家族の承諾のもと、取り次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンオープンキッチンにし、利用者と一緒に作業しやすくしている。また、リビングは圧迫感のないように天井を高くし、上窓からも採光を取り入れやすいようにしている。一部の壁や空間を利用し季節感が感じられるように工夫している。	リビングは、天井高く、採光良い。広く明るい空間の中に、炬燵のある和室や、テーブル配置に工夫を凝らし、個人のくつろぎの場の提供に努めている様子が見えがえる。また猫好きな方には、窓辺から見えるように庭に猫の置物を配したり、俳句を詠む方には俳句投函用ポストを設置する等、一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫が随所に確認出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの空間を設置し、ソファやテーブルなどの居場所をご本人の活動に応じて選べるように工夫している。また、ご利用者の状況に合わせてレインアウト変更なども行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの馴染みの生活環境が維持できるように、使い慣れた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。居室内の家具の配置等、ご本人、ご家族と相談しながら安全に配慮し生活しやすい場所になっている。	各居室は、ベッドやクローゼット、洗面所が完備されている。好みに応じて絨毯が敷かれた部屋もある。各自の思い思いの調度品等の持ち込みがなされ、本人本位居心地よい空間作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やテーブルの席にネームプレートを表示したり、居室ドアにお好みの物で変化を付け判り易くしご自身で生活の場所が認識できるようにしている。施設内は、バリアフリー、手すりを設置。ベットの介助バーを設置し、安全に立ち上がりができるようにしている。		